

シリーズ「声 議論, 正論, 極論, 批判, 対話...の物語」第2弾
新国立劇場『ロビー・ヒーロー』

アカデミー賞脚本賞受賞作家・ケネス・ロナーガンの戯曲を、
 新国立劇場初登場の桑原裕子が演出！



ジェンダー、上司と部下、人種——。複雑に入り組んだ現代における正義とは。



中村 蒼 岡本 玲 板橋駿谷 瑞木健太郎



演出 桑原裕子



芸術監督 小川絵梨子

4月10日(日) 10:00～ 一般発売 新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999

写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ
 新国立劇場 制作部演劇 広報担当 関
 TEL: 03-5352-5738 FAX: 03-5352-5737
 〒151-0071 東京都渋谷区本町1-1-1



作品について

シリーズ「声 議論, 正論, 極論, 批判, 対話...の物語」第二弾『ロビー・ヒーロー』は、2017年アカデミー賞脚本賞受賞で話題となった映画『マンチェスター・バイ・ザ・シー』のケネス・ローナーガンが執筆しました。

自分のやりたいことを見いだせずロビーの警備員として過ごしている若者が、おもわず口を滑らせてしまったことから起きるトラブルとその顛末を描いています。ジェンダー、上司と部下、人種など、さまざまな格差のレイヤーがある中で、彼なりに考えて起こした行動は、果たして正義なのか、正論とはいったい何なのか…。自己承認欲求が SNS であふれ出す現在、さまざまな角度から考えられ身近に感じる戯曲です。2001年オフ・ブロードウェイ初演、翌年にはウエストエンドで上演、18年にはブロードウェイでリバイバル上演されました。新国立劇場初登場の桑原裕子を演出に迎え、日本初演でお贈りします。

あらすじ

マンハッタンにある高層マンションの広いロビー。警備担当のジェフは、人生の目的もなくこの仕事についている。クソ真面目で向上心のある上司ウィリアムは、不良の弟が殺人罪に問われて心配していた。見回りに来た有能な警察官ビルと相棒の新人見習いのドーン、どうも二人はいい仲のようだ。ロビーで待っているドーンに、ビルの訪問先は女性だと口を滑らせてしまうジェフ。動揺したドーンは、勤務時間中の行動を上へ報告するとビルに噛みつくが、本採用させないぞと逆に圧をかけられてしまう。

翌日。弟のアリバイを偽証したウィリアムに対して、自分が何をすべきか悩むジェフ。ドーンは本当のことを話すのがあなたの責任だと説得するが…。

翻訳 浦辺千鶴からのメッセージ

2001年アメリカで初演されたこの作品が書かれたのは1999年だという。20年以上前の作品だが、人種や女性差別、格差の問題など、あまりに「今」の物語であることに驚かされた。20年経っても人々はBlack Lives Matterと叫び、セクハラ・パワハラの被害を日々ニュースが伝えている。問題の複雑さ、根深さを思い知らされる。

そんな中でも登場人物たちは必死に生きる。この世界を良くしたい、誰もが幸せに生きられる世の中にしたい、そのために自分も貢献したいと大きな夢を描く。そんな大きな夢を前に、小さな勇気が振り絞れずに悩む。「正義」とはなにか悩み、人間関係に悩み、夢と現実のギャップに悩み、一筋縄ではいかない人間の多面性に悩む。悩みながらも自分で出した答えを受け止め、必死に前を向いていく。

人間は多面的だ。良いだけの人もいなければ、悪いだけの人もいない。そもそも良い悪いの基準も時代や状況で変わったりする。最後に頼れるのは自分の中の正義だと思うが、独善的にならず柔軟な心で判断できることこそが求められるのだと思う。そんなことを軽妙でテンポの良い会話の中に繊細かつずっと存在させているこの作品は、とても優れた人間ドラマだと思う。

演出 桑原裕子からのメッセージ

2020年の春、コロナ禍にあって私は、自らの憤懣をいかに上品に、正当性を持って言語化するかということについて毎時毎分考えるというような、不毛な作業をしていました。

政治の欺瞞、社会の分断。格差や多様性において異なる意見を持つ人同士の無理解。そういったものへの憤りを醜いまま放置せず、先端を知り、正しく言葉にしたい。そんな情熱に一時、燃えました。

しかしそれらを例えば140文字のSNSにまとめたところでなんたる空しさ。誰かと理解を深め合えるわけもなく、むしろ見ず知らずの他者から思いもよらぬ反論をぶつけられて狼狽し、知人と稚拙な口論で疎遠になる始末。

この熱は結局のところ、中学時代に親と喧嘩したとか友達とうまくいかないとか脇に毛が生えてきたとか、理由の分からぬ不安や怒りに支配されたとき、枕に突っ伏して吠えたり、足をばたつかせて壁に穴を開けたりしたのとそう変わらない、行き場のない攻撃性の発憤なのだと悟りました。そして今の時代、「正しさ」があまりにも簡単に言語化でき、発信され、私のように情熱の怒りを持った人びとによって、あちこちで暴力を振りまいているかを思いました。

そんなときに『ロビー・ヒーロー』に出会いました。あらゆる角度の「正しさ」が絡まり、ねじれ、じゃあどうすれば良かったのと登場人物それぞれの立ち位置から葛藤しました。

正義や正解をたやすく定義できない。しかしそれこそが演劇の素晴らしさだと思い出し、この作品と共に情熱を注ぐべき場所へ帰ろうと思いました。

スタッフプロフィール

作：ケネス・ロナーガン (Kenneth LONERGAN)

劇作家、脚本家、監督。1962年ニューヨーク生まれ。高校時代から脚本を執筆し、ウェズリアン大学、ニューヨーク大学にて脚本・演出を学ぶ。

脚本、監督を手掛けた映画『マンチェスター・バイ・ザ・シー』(2016年)は、アカデミー賞、ニューヨーク映画批評家協会賞、全米脚本家協会賞、全米映画批評家協会賞、英国アカデミー賞の脚本賞、ほか多数受賞し話題となった。同じく脚本、監督した『ユー・キャン・カウント・オン・ミー』(00年)はアカデミー賞脚本賞ノミネート、サンダンス映画祭2000グランプリ、そして01年の最優秀脚本賞としてウォルド・ソルト脚本賞、ニューヨーク映画批評家協会賞、ロサンゼルス映画批評家協会賞、全米脚本家協会賞、AFI賞の最優秀作品賞及び最優秀新人作家賞を受賞。共同脚本の映画『ギャング・オブ・ニューヨーク』(02年)は、全米脚本家協会賞とアカデミー賞の最優秀脚本賞にノミネートされた。

劇作家としては、ニューヨークで、01年『ロビー・ヒーロー』(ローレンス・オリヴィエ賞、ドラマ・デスク・アワード戯曲賞、アウター・クリティクス・サークル賞戯曲賞およびジョン・ギャスナー劇作賞ノミネート)、00年『ウェイバリー・ギャラリー』(01年ピュリッツァー賞、ドラマ・デスク・アワード戯曲賞、アウター・クリティクス・サークル賞戯曲賞ノミネート)、1996年『これが僕らの青春』(ドラマ・デスク・アワード戯曲賞ノミネート)が上演されている。『ロビー・ヒーロー』と『これが僕らの青春』はウエストエンドでも上演された。

翻訳：浦辺千鶴 (URABE Chizuru)

上智短期大学英語学科、東京女子大学文理学部英米文学科卒業。小田島恒志、山内あゆ子両氏に師事。2009年、新国立劇場『シュート・ザ・クロウ』(小田島恒志氏との共訳)で本格的に翻訳家としてデビュー後、新国立劇場において、『スカイライト』『君が人生の時』『パッション』『星ノ数ホド』を翻訳。そのほか主な翻訳作品に『Home, I'm Darling』『ホイッスル・ダウン・ザ・ウィンド』『死と乙女』『スケリグ』『マクガワン・トリロジー』『ファン・ホーム』『CRIMES OF THE HEART』など。『星ノ数ホド』、俳優座劇場『月の獣』の翻訳に対し、第8回小田島雄志・翻訳戯曲賞を受賞。

演出：桑原裕子 (KUWABARA Yuko)

劇団KAKUTA主宰、俳優・劇作・演出を務める。近年の出演作として、『徒花に水やり』『シブヤデアイマショウ』『忘れてもらえないの歌』『俺節』『パール・ギュント』などがある。俳優業のほかに、テレビ、ラジオ、映画の脚本、舞台への作・演出など、多方面で活躍の場を拡げている。2007年KAKUTA『甘い丘』で、09年に第64回文化庁芸術祭・芸術祭新人賞(脚本・演出)受賞。15年『痕跡』で第18回鶴屋南北戯曲賞受賞。18年『荒れ野』が第5回ハヤカワ「悲劇喜劇」賞、19年第70回読売文学賞戯曲・シナリオ賞受賞。また、劇団作品『ひとよ』が白石和彌監督で映画化された。18年穂の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化アドバイザーに就任。

出演者プロフィール

中村 蒼 (NAKAMURA Aoi)

2006年、主演舞台『田園に死す』で俳優デビュー後、数々のドラマ、映画、舞台に出演。20年放送のNHK連続テレビ小説『エール』にて村野鉄男役を好演し、話題となる。近年の主な出演に、ドラマ『管理官キング』『風の向こうへ駆け抜けろ』『ネメシス』『神様のカルテ』『浮世の画家』『詐欺の子』『赤ひげ』『悪魔が来りて笛を吹く』、映画『もみの家』『空飛ぶタイヤ』など。

【主な舞台】『君子無朋～中国史上最も孤独な「暴君」雍正帝～』『MISHIMA2020 班女』『お気に召すまま』『忘れてもらえないの歌』『悪人』『OTHER DESERT CITIES』など。新国立劇場では『つく、きえる』に出演。

岡本 玲 (OKAMOTO Rei)

2003年、第7回ニコラモデルオーディションでグランプリを獲得し、デビュー。以後、ドラマ、映画、CM、舞台と多方面で活動。これまでの主な出演に、ドラマ『わたし旦那をシェアしてた』『執事 西園寺の名推理』『わろてんか』、映画『弥生、三月-君を愛した30年』『ボクはボク、クジラはクジラで泳いでいる。』『赤い糸』などがある。

【主な舞台】『陰陽師～生成り姫』『葉隠れ旅館物語』『湊横濱荒狗挽歌～新粧、三人吉三。』『森 フォレ』『迷子』『ダニーと紺碧の海』『罪男と罰男』『熱帯樹』トラム版『壁蝨』など。

板橋駿谷 (ITABASHI Shunya)

福島県出身。劇団ロロ、さんぴんに所属。

主な出演作品に、NHK連続テレビ小説『なつぞら』、NHK大河ドラマ『青天を衝け』、映画『君が世界のはじまり』『泣く子はいねえが』『サマーフィルムにのって』などがある。

特技はラップで、2018年、『オイディプス REXXX』にて作詞・ラップ指導を担当し、第26回読売演劇大賞優秀スタッフ賞受賞。

【主な舞台】ロロとして、いつ高シリーズ vol.9『ほつれる水面で縫われたぐるみ』、vol.10『とぶ』、『はなればなれたち』、さんぴんとして、日本縦断！秋祭り巡業公演『NEW HERO～突撃！隣のプレシャスご飯、デリシャス！！～』、ほか『エッグ』『ぬるい毒』など。

瑞木健太郎 (MIZUKI Kentaro)

桐朋学園演劇専攻卒業後、円演劇研究所を経て、1999年、演劇集団円の劇団員に昇格。これまでの主な出演に、ドラマ『相棒 18』『やすらぎの刻』『坂の上の雲』『科捜研の女』、映画『アルキメデスの大戦』、声の出演では、『ER 緊急救命室』『セイビング・フェイス 魂の救済』の吹き替え、NHKラジオドラマ『ロボット・イン・ザ・ガーデン』『アグリーガール』などの活躍の場を広げる。

【主な舞台】『罪と罰』『繻子の靴』『朽ちるまにまに』『ANJIN イングリッシュサムライ』『春琴』『西へゆく女』『エレファント・バニッシュ』など。

公演概要

【タイトル】 ロビー・ヒーロー

【スタッフ】

作 ケネス・ロナーガン

翻訳 浦辺千鶴

演出 桑原裕子

美術 田中敏恵

照明 宮野和夫

音響 島貫 聡

衣裳 半田悦子

ヘアメイク 林みゆき

演出助手 和田沙緒理

舞台監督 野口 毅

芸術監督 小川絵梨子

主催 新国立劇場

【キャスト】

中村 蒼 岡本 玲 板橋駿谷 瑞木健太郎

【会場】 新国立劇場 小劇場 (京王新線 新宿駅より1駅、「初台駅」中央口直結)

【公演日程】 2022年5月6日(金)～22日(日)
(5月1日[日]・2日[月]プレビュー公演)

【料金(税込)】 本公演 A席7,700円 B席3,300円(税込)
プレビュー公演 A席5,500円 B席2,200円(税込)

【一般発売】 4月10日(日)10:00～ ※通常の座席配置での販売を予定しております。

【チケット申し込み・お問い合わせ】

新国立劇場ボックスオフィス TEL: 03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

☆本公演は新型コロナウイルス感染予防、拡散防止対策をとって上演いたします。

詳細: https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html

☆本公演では、耳や目に障害のあるお客様への観劇サポートをご提供いたします。

* **Z席1,650円** Z席(各日10席)は、公演当日朝10:00から、新国立劇場Webボックスオフィスおよびセブン-イレブンの端末操作により全席先着販売いたします。※先着販売後、残席がある場合は、公演当日の開演2時間前からボックスオフィス窓口でも販売いたします。※電話予約不可。* **当日学生割引**
公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約不可。* 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障害者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(中学生以下20%)など各種の割引サービスをご用意しています。

【全国公演】

・穂の国とよはし芸術劇場PLAT 主ホール

2022年5月28日(土)13:00、29日(日)13:00

・兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール

2022年6月5日(日)13:00

・岡山市立市民文化ホール [主催:(公財)岡山文化芸術創造]

2022年6月11日(土)13:00